

コーパスから見た日本語母語話者と日本語学習者における「～ておく（とく）」の使用状況

鈴木 美奈・松田真希子^{註1}

要 旨

「～ておく（とく）」は日本語母語話者が日常的に産出する表現であるにもかかわらず、日本語学習者の産出が少ない文法形式の一つである。本稿では「～ておく」のよりよい日本語教育文法の提案のため、日本語教科書調査、母語話者コーパス調査、学習者コーパス調査を行った。その結果、日本語教科書調査ではすべての教科書で「準備」用法がとりあげられ、「放置」「措置」は部分的な扱いであること、縮約形「～とく」は初級では扱われていないことが明らかになった。次に母語話者コーパス調査の結果、「措置」が最も高頻度で産出されていること、縮約形の「～とく」は特にその傾向が顕著なこと、縮約形の「～とく」は「～ておく」と比べ使用される動詞や表現が偏っていることが明らかになった。最後に日本語学習者コーパス調査の結果、学習者はほとんど「～ておく」も「～とく」も産出していないことが明らかになった。今後は「～ておく」の指導にあたり、「準備」ではなく「措置」の用法をまず教えること、措置を基準に「準備」と「放置」を教えること、縮約形も導入し、定型表現と共に教えることなどを行うことが望ましい。それらにより、産出の伸びが期待できる。

I. はじめに

筆者は以前、中級日本語学習者と話した際に、「～ておく」の意味が今ひとつわからないという質問を受けたことがある。また、山内（2009）が挙げた中級話者による使用が見られなかった項目にも、この「～ておく」は入っている。これらのことから、「～ておく」は初級半ば～後半で扱われる文型であるものの、学習者が理解しにくく、産出されにくい文型の一つではないかと考えられる。

本稿では、初級後半に学習することの多い「～ておく」について、教科書での扱われ方と、母語話者、学習者コーパスから使用状況を明らかにし、日本語教育の現場への応用を検討することを目的とする。

II. 先行研究

「～ておく」の意味記述や分析には多くの論考があるが、大別すると、意味用法を「準備」と「放任（放置）」の二つとするもの（森田1988等）と、それに「措置」や「効果残存」を加えた三つとするもの（山本2005, 中俣2014）とに分けることができる。

二つとした森田（1988）は、「～ておく」の用法を「一 自己のために、事後を予想して事前にその事を行う」「二 他者を前提とした行為で、他者がある状態にし、その状態をいつまでも続けさせる放任の意となる」としている。

三つとした山本（2005）は、ある具体的な目的に向けて、行為を予め行うことを「準備」とし、「～ておく」の基本的意味とした。また、行為が継続するという面に焦点が当たるものを「放置」、目的が未来ではなく、行為の時点で既に発生しているものを「処置」としている。中俣（2014）は「未来に備えて、その動作をあらかじめ行い、準備するという意味を表す。（略）また動作を完了し、その効果が未来にわたって持続するという用法も持つ。持続用法は放置の意味で用いられることが多い」と述べている。

また、日本語教師用の文法解説書における記述を見ていくと、『初級日本語文法と教え方のポイント』では、「～ておく」の用法は、「前もってする」「そのままにする」の二つとしている。一方、『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』では、「ある目的のためにあらかじめある行為を行う」と書かれているのみで、他の用法についての記述はない。これらのことから「～ておく」の用法の定義には複数のものがあることがわかる。

コーパスベースの「～ておく」の研究には中俣（2011）（2014）がある。中俣（2011）はコーパスからよく共起する動詞を調査したが、多くの教科書で「～ておく」と並んで提出されやすい「～である」ではコーパスのジャンルを問わず「書く」が50%近い数字を占めている一方で、「～ておく」に関しては、目立つような特徴はなかったとしている。また中俣（2014）では「～ておく」の意味を「準備」「放置」「効果持続」の三種類にわけ、「～ておく」1,000例を抽出して意味分類を行っている。その結果、効果持続が46%、準備が35%、放置が19%であったと述べている。同時に BCCWJ 中納言を用いて、「～ておく」の前接動詞上位10語と出現数を示している。

また、日本語学習者の「～ておく」の研究には中俣（2011）、水野（1988）がある。中俣（前掲）は日本語学習者の作文コーパスの分析の結果から、学習者は「～ておく」を準備と結びつけているとし、その理由は何の教科書も「準備」の「～ておく」を扱っているためであるとしている。

そして、「～ておく」の実践指導に関する先行研究としては水野（1998）がある。水

野（前掲）は、「～ておく」の本義と派生義を分析した上で、本義は学習導入順序としては、「おく」の本義である「置く、そのままにする」を色濃く残している「維持・放置」から導入することを提案している。

Ⅲ．教科書上の扱い

次に、「～ておく」の日本語教科書での扱いについてみていく。「～ておく」は初級の後半に学習される項目であるが、教科書によって扱われている用法が異なる。以下は、主な初級教科書における「～ておく」の導入時期と用法である。

表1 各教科書における「～ておく」の用法と導入している課

教科書	全体	準備	措置	放置
『みんなの日本語初級』Ⅰ, Ⅱ	50課 (25+25)	30課	30課	30課
『できる日本語』初級, 初中級	30課 (15+15)	21課		24課
『新文化初級日本語』	34課 (18+16)	26課		
『はじめよう日本語初級』1, 2	22課 (12+10)	18課	20課	

これらの教科書では、全て「準備」を取り上げ、かつ初出にしている。そして『みんなの日本語』を除き、措置や放置の用法をその後の課に置く傾向が見られる。また、いずれの教科書でも「～ておく」の縮約形である「～とく」については扱われていない。

以下、実際の教科書での扱いについて教科書の例文を挙げて見ていく。

1. 『みんなの日本語 初級Ⅱ』

第30課で「準備」「措置」「放置」の3つの用例を提示している。

[1] 第30課 例文 (p34)

3. 来月の出張ですが、ホテルを予約しておきましょうか。(準備)
…ええ、お願いします。
4. はさみを使ったら、元の所に戻しておいてください。(措置)
…はい、わかりました。
5. 資料を片付けてもいいですか。
…いいえ、そのままにしておいてください。まだ使っていますから。(放置)

2. 『できる日本語 初中級』

第6課の旅行の準備をする場面で「準備」の用法、第9課のアルバイト中の場面で「放置」の用法が以下のように提示されている。

[2] 第6課 言ってみよう (p86)

例) A : Bさん、私がツアーを予約しておきますね。(準備)

B : お願いします。じゃ、私はガイドブックを買っておきましょう。(準備)

[3] 第9課 言ってみよう (p129)

例) A : バターを冷蔵庫に入れましょうか。

B : あ、まだ出しておいてください。(放置)

3. 『文化初級日本語II』

第26課で「準備」の用法のみ提示されている。例は4文提示されており、場面は、旅行の準備、食事の誘い、会社での会議の準備、旅行中とそれぞれ異なっている。

[4] 第26課 (p93)

1) A : どこへ行くんですか。

B : 旅行会社です。夏休みに旅行に行くので…。

A : 早いですね。

B : ええ。8月は旅行する人が多いから、今から予約しておくんです。

(準備)

2) 武 : 食事はどうしようか。

良子 : 映画は6時半から8時半までだから、先に軽く食べておかない？

(準備)

武 : それがいいね。

3) (昼休み 会社で)

長井 : 午後の会議の場所はどこですか。

課長 : 3階の大会議室です。

長井 : では、エアコンをつけておきましょうか。(準備)

課長 : お願いします。

4) (団体旅行のバスの中で)

添乗員 : みなさん、ここで15分休憩します。

ここを出発した後、下田まで休憩はありませんので、

ここでお手洗いに行っておいてください。（準備）

4. 『はじめよう日本語初級2』

第18課のパーティーの準備場面で「準備」の用法、第20課の旅行の会話の場面で「一時的措置」の用法が提示されている。

[4] 第18課 (p116)

会話1 (パーティーの前の週)

王：周さん、引越しのことはいろいろお世話になりました。

周：いいえ。無事に終わってよかったですね。

王：おかげさまで。それで、みんなに手伝ってもらったので、今度の日曜日におつかれさまパーティーをやりたいと思うんですけど。

周：そうですか。一人ではたいへんでしょう。手伝いますよ。

王：だいじょうぶです。いところが手伝ってくれますから。

周さんは飲み物は何がいいですか。

周：わたしはりんごジュースが好きです。

王：そうですか。じゃ、買っておきます。（準備）

会話2 (パーティーの前の週)

王さんのいところ：おつかれさまパーティーのことだけど、飲み物は何にする。

王：りんごジュースを買っておいて。あとは何でもいいよ。

(準備)

王さんのいところ：わかった。

会話3 (パーティーの日)

王：もうすぐみんな来る時間だよ。おきらとコップは並べてある。

王さんのいところ：うん。テーブルの上に並べてある。

王：飲み物は。

王さんのいところ：れいぞうこに入れてあるけど、出しておく。（準備）

王：うん、出しておいて。（準備）

王さんのいところ：わかった。

5. 現状の問題点及び研究目的

以上、先行研究と教科書分析を行ったが、これらの分析から以下のことが分かる。

(1) 初級教科書では縮約形「～とく」が扱われていない

教科書では「～ておく」が代表的な形として扱われており、その縮約形である「～とく」に関しては提示されていないことがわかる。

(2) すべての教科書は「準備」を中心的にとりあげている。そして準備以外の用法を取り上げている教科書も、とりあげていない教科書もある。

中俣（2011）は、学習者の作文コーパスの分析の結果から、学習者は「～ておく」は準備と結びつけているとし、どの教科書も「準備」の「～ておく」を扱っているため、この結果は当然と述べているが、準備しか扱っていない教科書のほうが少数派である。それにも関わらず準備以外の用法が出現していないとすれば、それはなぜだろうか。

以下の章では、特に「～とく」に注視して、母語話者コーパス（BCCWJ）、日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス（金澤他2014）、接触場面コーパス（日中SKYPEコーパス）に基づいて分析を行う。タスク別書き言葉コーパスは、日本語母語話者と非母語話者（韓国語・中国語）各30名の書き言葉資料（日本語作文等）を収集したコーパスである。日中SKYPEコーパスは実践女子大学と湖南大学で行った会話活動を記録、文字化したもので、9ペア、38会話、合計録音時間46時間48分35秒である。

IV. コーパス調査・分析

1. 母語話者コーパスにおける「～ておく（とく）」の調査・分析

まず書きことばコーパスである国立国語研究所の「現代書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）」をベースにした検索アプリケーションLWP-BCCWJを利用して、「～ておく」と縮約形の「～とく」の共起する動詞を調査した。表2は「～ておく」と「～とく」と共起する動詞の上位10語を示している。

表2 「～ておく」と縮約形「～とく」と共起する動詞（上位10語）

	BCCWJ	実数 / 割合	累積比率		BCCWJ	実数 / 割合	累積比率
1	しておく	3658 (11.4%)	11.4%	1	しとく	285 (11.7%)	11.7%
2	放っておく	839 (2.6%)	14.0%	2	置いとく	207 (8.5%)	20.2%
3	入れておく	829 (2.6%)	16.6%	3	言っとく	174 (7.2%)	27.4%
4	言っておく	781 (2.4%)	19.0%	4	やめとく	152 (6.2%)	33.6%
5	せておく	669 (2.0%)	21.0%	5	放っとく	76 (3.1%)	36.7%
6	知っておく	647 (2.0%)	23.0%	6	やっとく	72 (2.9%)	39.6%
7	置いておく	590 (1.8%)	24.8%	7	入れとく	66 (2.7%)	42.3%
8	覚えておく	530 (1.6%)	26.4%	8	(さ)せとく	40 (1.6%)	43.9%
9	つけておく	448 (1.4%)	27.8%	9	覚えとく	36 (1.4%)	45.3%
10	残しておく	420 (1.3%)	29.1%	10	見とく	32 (1.3%)	46.6%

BCCWJでは、「～ておく」は31,943例、縮約形の「～とく」は2,422例あった。BCCWJは書き言葉均衡コーパスであることもあり、話し言葉である「～とく」とは約10倍以上の差が見られた。そして中俣（2011）が指摘したとおり、「～ておく」には突出して共起する動詞は見られなかった。また本研究ではBCCWJ-LWPを利用したため、中俣（2014）とは検索インターフェースが異なるが、「～ておく」の前接動詞の出現数と出現順はほぼ同一であった。

一方縮約形の「～とく」に関しては、「～てある」のように突出して共起されやすい動詞はないものの、「～ておく」と比べ共起する動詞に傾向があり、上位4つの動詞で3割、6つの動詞で全体の4割、上位10位の動詞で全体の約5割を占めることがわかった。特に多いのは「置いとく（8.5%）」「言っとく（7.2%）」「やめとく（6.2%）」である。

「～とく」に共起する語も調べたが、「そつとしとく」が19例と最も多かったものの、ばらつきが目立ち、特徴は見られなかった。

2. 母語話者コーパスからみる「～とく」の用法の分析

次に「～とく」と共起する上位10語の例文1,155例を措置、準備、放置の3つに人手で分類し、分析を行った。以下その結果について述べる。

1) 母語話者コーパス分析による「～とく」の用法

結果を表3、図1に示す。上位10語（46%）の用法頻度としては、ほとんどが措置であり、措置、措置と準備、措置と放置を合わせると76%である。

表3 「～とく」の用法別頻度

用法	頻度	%
措置	728	63%
措置+準備	55	5%
準備	75	6%
措置+放置	91	8%
放置	171	15%
判定不能	15	1%
	1155	100%

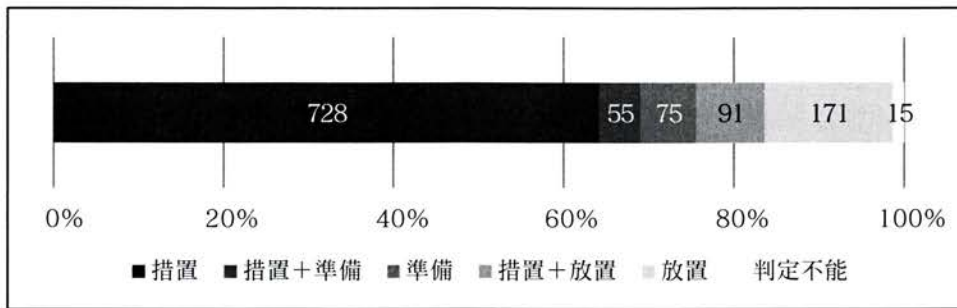


図1 「～とく」の用法別頻度

どちらか一方には決めがたく、両義的な用例も多くみられた。下記にその一部を示す。

措置と準備の両義的な例

[5] 今やめとけば退職金ももらえるし、道義的責任を取ったとして国会へ呼ばれることもなさそうだからですね。(Yahoo!知恵袋, 2005, ニュース, 事件)

[6] 当日だと絶対に忘れてしまうから前日にはカバンに入れとこうと^^
(Yahoo!ブログ, 2008, Yahoo!ブログ)

措置と放置の両義的な例

[7] 「もういいから放つといってくれ」
(古館伊知郎著 『喋らなければ負けだよ』, 2002, 809)

[8] 「いつまでそんな寝ごとを言わせとく気だ。」
(保科昌彦著 『ゲスト』, 2005, 913)

また、動詞によって、ほとんど一義的に決まるものと、複数の用法が出現するもの

があった。用法がほとんど一義的に決まるものとしては「やめとく」（措置）、「ほっとく」（措置+放置）、「やっとく」（措置）、「覚えとく」（準備）、「みとく」（措置）があった。一義的に決まらず前の名詞、副詞や後ろの活用形などを頼りに判定する必要があるものは「おいとく」（措置 or 放置）、「入れとく」（措置 or 準備）、「言っとく」（準備+措置 or 措置）、「しとく」（全てのパターン）であった。

「おいとく」は複数の用法がみられたが、それらは定型表現が多かった。「A はおいて B」という、助詞「は」を伴って出現する例が全体の62%を占めており、ほぼ100%放置（前置き表現としてAを議論の対象から外す意味）の用法であった。一方「Aをおいて」と助詞「を」を伴う場合であれば、ほぼ100%措置（若干弱い準備が入る場合もある）の意味であった。

「言っとく」も用法が複数見られたが、その多くが定型表現であった。具体的には「言っとくけど」「最初に言っとくけど」「念のために言っとくけど」のように「けど」を伴い、前提を提示する用法が最も多くみられ、全体の67%であった。この場合は「準備+措置」と判断した。

2) 「～とく」の主用法は「措置」である

コーパス分析の結果、基本的にすべての用法は程度の差はあれ、「措置」であることが分かった。すなわち、「～とく」はある目的を伴う行為に行為者の意志が介在していることを示すマーカーであり、これは言い換えれば「措置（take measures）」の表現である。それが消極的でかつ労力・変化を伴わない介在であれば「放置（「何もしない」という措置）」の意味が強化され、積極的で労力・変化を伴い、未来に起こる場面のために備える行為と判定されれば「準備（未来のために何かするという措置）」の意味が強化されるにすぎない。各用法の例を示し、関係を図2に示す。

放置の例

[9]生ゴミを、三日間そのまま、ほうりっぱなしにしといたようなにおいがして、ぼくはおもわず顔をしかめる。

（牧野節子作；浜田洋子絵 『とうさんはコケッコかんとく』, 1999,)

[10]だけど、そのままにしとくような頼子サンではないゾ。

（皆川ゆか著 『<愚者>は風とともに』, 1993, 913)

準備の例

[11]「とりあえず胃カメラの予約をしときましょう」早くで一週間、遅いと数カ月後

に検査となります。

(寺下謙三著 『プライベートドクターを持つということ』, 2001, 498)

[12]「あつ、お風呂もさつとでええから洗って、お湯入れといてくれへん？」

(令丈ヒロ子著 『ホンマに運命?』, 2005, 913)

措置の例

[13] 出かけてるとか何とか適当に言っといてくれ

(保科昌彦著 『ゲスト』, 2005, 913)

[14] 「10ヶ月の子供の鼻詰まりがひどく、微熱(37.7度)もあるのですが、やっぱりお風呂はやめといたほうがいいですか??」

(Yahoo!知恵袋, 2005, 子育て, 出産)



図2 措置を中心とする三用法

また、措置の有無は、やり取りの中で認定される必要があるため、「～ておく」には強い人称制限が発生する。つまり認定が可能な1人称か2人称主語文である。3人称主語文は非常に制約があるため推量のモダリティや終助詞「ね」などによって話者の推測に基づく措置認定であることを明示的にする必要がある。

[15]「じゃあ、だれかが、あそこにこれを入れといたんだね。」

そしてこれらの二つの用法「準備」「放置」にどちらかに強く意味が振れるものはあまり多くなく、ほとんどはそのどちらでもない「措置」であった。この結果は「放置」を本義とする水野(前掲)、「準備」を本義とする中俣(前掲)とは異なる結果である。この原因が「～ておく」と「～とく」の異なりに基づくものか本稿では検討しないが、中俣(2014)において「～ておく」の効果の持続が全体の46%を占めていることを考えても、「～ておく」も措置が主用法である可能性は高い。

また中俣(2014)の「効果の持続」用法については、「～とく」をそのように判定するのが困難な例がいくつも見られた。例えば未来形や否定形との共起である。未来形(「出した靴は片づけなさい」と言われて)「あとで片づけておくよ」という場合はまだ

実現していない行為であり、効果も持続していない。そのため、未来の行為の措置の表明とするほうが自然である。また、否定形「～しないでおいた」「～やめておいた」も「しない」「やめる」という効果の持続というより非実現の措置を行っているという解釈が妥当である。

また「準備」と「措置」は「措置」と「放置」を分ける以上に困難であった。「準備」は未来の行為に向けた「措置」であるためである。そのため「～とく」の意味は基本的には「措置」の一つでよく、あえて分けるなら、積極的な関与をしない意志を表明する「放置」とそれ以外の「措置」の二種類で分類することがのぞましいのではないだろうか。

3. 学習者コーパスにおける「～ておく（とく）」の使用状況

次に「日本語学習者作文コーパス」と「日中 skype 会話コーパス」を利用して、学習者の「～とく」の使用状況を調査した結果について述べる。

まず、「日中 skype 会話コーパス」における使用状況について述べる。ここでは、「～ておく」の使用は、「学長は、エアコンを予備しておくといいました。」の1例のみで、縮約形の「～とく」の使用は見られなかった。

次に、「日本語学習者作文コーパス」における使用状況について述べる。このコーパスは初級から上級の日本語学習者304名の作文データが収録されているものであるが、調査の結果、「～ておく」の使用は4例のみで、中級学習者によって書かれた文であった。内訳は、「書いておく」が2例、「わかっておく」「とっておく」が1例ずつとごくわずかであった。縮約形の「～とく」は2例あり、上級学習者が書いたものであったが、以下のように2例とも誤用であった。

[16] うまくするためにはただだんに勉強ばかりするといてできるんじゃないなくて
興味を持って… (勉強さえすればいいわけではない)

[17] 地下鉄の駅の入り口においといて読みたい人はいつでもとって…
(置いてあって)

V. まとめ

本稿では「～ておく」の用法を概観し、コーパスから共起する動詞と使用状況を見た。母語話者コーパスから見た共起する動詞では、「～ておく」の場合では特徴は見られ

なかったものの、縮約形の「〜とく」では、上位4つの「しとく」「置いとく」「言とく」「やめとく」で全体の3割を占めることがわかった。また「〜とく」の意味は「措置」であり、積極的に複数の用法の違いを説明する必要はないこと、「その話はおいて」「先に言とくけど」のような慣用表現の存在も確認された。そのため、話し言葉としての「〜とく」はある程度明確な出現傾向をもった表現であり、そのことを教えることで、縮約形の「〜とく」の使用が増加する可能性がある。

また、今回対象とした学習者コーパスでは「〜ておく」と縮約形の「〜とく」の使用例がほとんど見当たらなかった。そのことから、学習者が「私が準備しておきます」と言う場面で「私が準備します」と言うなどして、使用を避けている可能性も考えられる。学習者が「〜ておく」の用法をイメージしやすいよう、学習者にとって身近な場面を用いて提示していくことが必要と考えられる。

今回は学習者コーパスでの使用実態の調査が十分とは言えず、学習者が「〜ておく」の使用を避けているのかが定かではなかった。また「〜とく」はすべての出現動詞の用法を調べたわけではないため、ある程度の偏りは否めない。母語話者の使用場面と学習者が使用し得る場面にはどんなものがあるかの調査と併せて今後の課題としたい。

【注】

- 1 鈴木 美奈（金沢大学大学院）・松田真希子（金沢大学）

【付記】

本研究は JSPS 科研費15K02583、25580109の助成を受けたものです。

【参考文献】

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 市川保子（2003）『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク
- 金澤裕之 編（2014）『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』ひつじ書房
- 中俣尚己（2011）「コーパス・ドライヴン・アプローチによる日本語教育文法研究―「である」と「ておく」を例として―」森篤嗣・庵功雄編『日本語教育文法のための多様なアプローチ』ひつじ書房、215-233.
- 中俣尚己（2014）『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』くろしお出版
- 水野マリ子（1998）「「〜ておく」について―本義と派生義からの見直し―」『神が大学留学生センター紀要』5、21-36.
- 森田良行（1988）『基礎日本語辞典』角川学芸出版
- 山内博之（2009）『プロフィシエンシーから見た日本語教育文法』ひつじ書房

コーパスから見た日本語母語話者と日本語学習者における「～ておく（とく）」の使用状況（鈴木・松田）

山本裕子（2005）「～ておく」の意味機能について『名古屋女子大学紀要』51、208-218.

【分析に使用した日本語教科書】

スリーエーネットワーク『みんなの日本語 初級Ⅱ第2版』（2012）スリーエーネットワーク

できる日本語教材開発プロジェクト『できる日本語 初中級』（2011）アルク

文化外国語専門学校日本語学科『文化初級日本語Ⅱ』（2013）凡人社

TIJ 東京日本語研修所『はじめよう日本語初級2』（2013）スリーエーネットワーク

How *teoku* (*toku*) are used in Japanese text corpora?: a comparison between Japanese native speakers and Japanese non-native speakers.

Mina Suzuki and Makiko Matsuda

Abstract

Japanese learners are likely to avoid grammatical expression “~teoku” and its shortened form “~toku” in their production. The previous study said “~teoku” has 3 grammatical meanings: (1) “to prepare” that is to do something to prepare for future (2) “to leave” that is to leave something as it is for a while, and (3) “to measure”; to do something as a measure. In this paper, we investigated how these meanings are introduced in the Japanese textbooks and how Japanese native/non-native speakers use “~teoku/toku” through the corpus analysis. As a result, the author found that “to prepare” is the most commonly introduced meaning in the Japanese textbooks and “to leave” and “to measure” are partly introduced. However, the most frequently occurring meaning was “measure” in the native Japanese corpus. And also “~teoku” and “~toku” are rarely used in the learners’ Japanese corpus. Therefore, this paper proposes that the meaning of “measure” should be taught first. By doing this, it should be possible to increase learners use of “~teoku”.